

平成25年12月16日

清水町長 山本博保様

清水町行政改革推進委員会

委員長 中山 勝

副委員長 渡辺 千秋

委員 荒井 絢子

委員 久保田 俊治

委員 原 とく

委員 菊地 克實

行政改革の推進に関する取組について（提言）

清水町行政改革大綱実施計画の進捗状況等を踏まえ、行政改革の更なる推進を図るため、別紙のとおり提言します。

記

平成25年度提言事項 6項目

## 別紙

### 1 住民主体の避難場所の確保について

大学等の調査研究機関によるとマグニチュード8～9クラスの巨大地震が今後30年以内に、静岡県を含む地域で発生する確率は60～70%となっており、防災対策は待ったなしである。

このような中で、東日本大震災の教訓から、災害時の自助、共助が非常に重要であることは言うまでもなく、自らの地域は自ら守るという高い意識を醸成することが、最も重要な防災対策であると考えられる。

そこで、災害に対する被害回避を住民自身が行うことができるよう、住民が主体となって災害避難場所の確保を進めることを提案する。

具体的には、避難場所の確保や運営を各区（住民）が主体となって進め、町やボランティア団体等はアドバイザーとして住民の自主的な活動を支援して官民一体の協働事業とすることや、平時にはビオトープや緑地を設置して憩いの場として活用し、より身近な場として住民に意識付け、災害が発生してもあわてることなく避難できるようにするなど防災に対する意識を高める工夫をしながら進めていくことを検討されたい。

### 2 賀詞交歓会の運営改革について

賀詞交歓会は、毎年、仕事初めの日に町主催で招待者の出席により開催され、式典の内容は、町長及び議長の挨拶並びに表彰（善行表彰、技能功労者表彰）を行っており、主たる目的である出席者相互の交歓の場は、式典開始前と終了後となっているが、このような場の設け方では、実際に出席者の交歓が活発に行われているとは言えない状況にある。

賀詞交歓会は、年始に出席者相互間の挨拶を交わすことで、地域の連携を深めることが趣旨であるから、実質的な交歓を行うことができる場の設け方やその内容を検討されたい。

#### 《参考》

- ・出席者の代表者等に近況報告として発表の機会を設ける。
- ・主催を町から商工会に移管し、実質的な交歓が行えるものとする。
- ・賀詞交歓会と表彰は切り離す。

### 3 地域交流センターの町民利用の優先について

地域交流センターは、各種会議室等の使用料金が他市町と比較して安価であること、交通の利便もよく駐車場等が十分に完備されていること、新しい施設で使い勝手も良いことなど、他の市町の施設と比較しても利用面で劣るところはなく、むしろ優位であることから、町民はもとより他市町の利用者や企業にも人気があり、会議室等の利用予約開始日には利用者が開館前から列をつくり、町内の団体が思うように予約を取れない状況にある。

他市町の利用者にも人気が高いことは、非常に良いことではあるが、本施設の主な設置目的は、町民相互の交流促進や文化活動を支援し生涯学習意欲を高めることにあるので、例えば町民は町外者よりも会議室等の利用料金や予約開始時期で優遇するなど、町民利用の優遇策を検討されたい。

《参考》

- ・長泉町健康づくりセンター（平成25年8月オープン）

施設名	利用料金	
	町民	町外
温水プール	100円	300円
マシンルーム	100円	300円
調理室	500円	1,500円
多目的室	500円	1,500円

### 4 四季を感じる町づくりについて

毎年度、「子どもの日」付近で行われる鯉のぼりフェスタは、子ども連れでにぎわっており春の事業として好評である。この事業は、各家庭でいらなくなった鯉のぼりの寄贈によりスタートしたが、この事業をヒントに、ひな人形の寄贈を募り、3月のひな祭りの時期に公共施設等に飾って、風情や情緒を楽しむとともに春を感じ、安らぎと穏やかな心を育む事業として実施を検討されたい。

## 《参考》

### 伊東市の事例

名 称	伊東MAGARI雛 & KAGUYA雛
主 催	実行委員会（観光協会、商工会）
後 援	伊東市
実施場所	メイン会場 4 か所（市役所ほか） サテライト会場 6 か所（駅ほか）
実施期間	2月下旬～3月上旬（10日間）
予算執行	補助金20万円（町→実行委員会） ※ひな人形は寄贈



寄贈された雛人形が市役所玄関ホールに飾られている様子

保管方法	ひな人形は実行委員会本部（商工会）の倉庫に衣装ケースに入れて保管、今後レンタル倉庫を借用する予定
そ の 他	以前は市民グループ主催で市役所のみ飾っていた（補助金なし）。平成24年度から商工会等の主導で地域、観光振興を目的に大規模化を図っている。

## 5 地域交流センターの展示場について

地域交流センターには、旧公民館の時にはなかったが新たな設備として展示ホールが設置され、文化を発信する拠点として期待感が高まった。

この展示ホールは、地域交流センターの玄関を入りすぐ右手側に位置するため、来訪者が必ず目にする空間で、来訪者の印象を左右する重要な設備である。

しかし、期待が高いことの表れではあるが、「展示ホールの照明が暗く感じる。展示物が期待したよりも引き立っていない。」という声を聞く。

そこで、地域交流センターを訪れた人に好印象を持ってもらうため、展示ホールの照明の数を増やす、また明るいものへと変更するなど、展示物をより効果的に見えるものへと改修することを提案する。

照明の雰囲気の良いものへと改修できたら、より文化的で上品な印象の展示ホールとなり、来訪者へ好印象を与え、リピーターが増え、多くの人に訪れていただくことができる町の自慢の施設となる。

## 6 周辺市町との連携について

昨今の行政運営は、単独自治体だけで完結する業務は減少し、近隣市町を含めた一体的なまちづくりが必要となっている。その要因としては、住民や産業界（以下「住民等」という。）の行動・活動範囲が広範囲になっており、単独自治体だけで住民等の行政サービスを満足させることができないためである。

また、全国的に人口減少時代に突入しており、地域の住民等だけを対象とした行政運営だけでは成り立たず、他地域からの交流人口を拡大して、来訪者をいかに取り込めるかが地域活性化の重要な課題となっており、この点においても一体的なまちづくりが求められ、周辺市町との連携が必要なことは言うまでもない。

また、清水町に目を向けて見ても、全国の他市町村と比較すると、予想される人口減少は緩やかではあるが、減少傾向にあることは確実視されているほか、産業面では商業が盛んだが、その他は盛んとは言えず、特に国内におけるものづくりの在り方が問われている中で、新たな清水町の活力を創造することが求められており、近隣市町との連携が必要不可欠である。

これらのことを踏まえ、周辺地域が参画している連携組織への加入の有無を確認するとともに、地域活性化における一体的なまちづくりの観点から連携することが望ましいと判断できるものを整理して、重要度が高いと判断できるものにあっては、積極的に参画していくことを検討されたい。

### 《参考》

- ・伊豆半島7市6町首長会議（沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町の7市6町）
- ・静岡県東部地域スポーツ産業研究会